

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301214		
法人名	社会福祉法人 加茂光陽会		
事業所名	グループホーム 杉宮 (ユニット共通)		
所在地	岡山県津山市杉宮820-1		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301214-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・建物は森林や田畑に囲まれており、またホールの窓やテラスからは池に訪れる鳥の親子などを見て楽しむことができる。また 2つのユニットをつなぐ広いテラスに出て季節の花々を眺めたり、風を感じながらご利用者同士や職員とのほのぼのとした交流を図ることができる。ゆったりとした時間の中で、個々の興味のあることを一緒に行ったり、話を聞いたり、寄り添える支援ができるように努力している。
 ・ご利用者家族や地域の方から採れたての野菜が届けられ、新鮮で旬の食材を使用したものが食卓に上がることが多い。ご利用者との会話などにより、地域ならではの昔からの季節に応じた献立作りができるように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2棟を繋ぐ広いウッドデッキでは毎朝ラジオ体操が行われており、天気の良い時は歌を歌ったり、プランターで花を育てたり、両棟の活動の場となっている。程よい距離に小高い丘陵地と車道と池があり風光明媚。車椅子の男性利用者が一人で竹まい、「何台車が通ったかな」と職員が声を掛けていた。
 このグループホームは母体法人が定めた運営様式により管理され、会議録からケアプランに至る各種の記録物が充実、整備され、末端職員まで趣旨が徹底する方策が確立している。
 管理者としての就任が1年目と2年目と言う両棟の管理者は、互いに切磋琢磨しながら職員をよく導き、出来ている事、出来ない事をよく見極めて改善出来る事から取り組む向上心を持ち、新しい体制を築いていこうと頑張っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲げている、理念について改めて振り返る機会を持ち、意識して日常に生かせるようにしている。	法人全体と各ユニット毎の理念を掲げ、実践のための年間目標を作り、更に月間目標を立てて毎月勉強会により達成度を評価して、各自がレポートを書く作業を行っている。このことにより、若い新人職員も理念に対する意識が深まり、良いケアにつながって欲しいと管理者が話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行う夏まつりに地域の子どもたちと保護者の方々に来て頂いたり、秋祭りには子供神輿が来るという行事的なことは毎年行っている。日常的な交流ということでは、まだ工夫が必要。	町内行事等はグループホームが遠隔地にあるため交流困難がある中で、現状の子供達との交流と演芸ボランティアとの交流を継続していく事を頑張っている。このホーム周辺の住民との交流拡大は今後の課題となっている。	ホームを取り巻く隣近所の方々との行ったり来たりの日常的な付き合いは災害時のみならず、いざという時に双方にとって役に立ちます。積極的な付き合いの発展を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援方法について地域の人々に向けた取り組みとしては、出来ていないのが現状。今後の努力が必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の行事や、取り組み状況についてお伝えしていく中で、出された意見に関して、出来ることから実践しながら、また次の会議で報告をするように心がけている。	町内会長、民生委員、愛育委員、市役所、家族、法人施設長、管理者のメンバーで構成しており、ホームを理解してもらうことを目標に、「健康講話」や「避難訓練と見学交流会」を行う際に推進委員を通じ地域の人に参加を呼びかけ実施している。推進委員会の拡大を意識して、開催については地域の住民にも広報している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア会議や運営推進会議など随時、連絡や相談を行っている。	各種の会議では情報交換を行って来て、ホームの事をよく理解してもらっているので、良い協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間としての尊厳を守ることを最優先として考えることを徹底すると共に、その為の環境をどのように整備するか、様々な工夫について話し合うようにしている。。	身体拘束、虐待共に勉強会や他所の研修会にも参加し、共通認識を持っている。又、職員会議において体験事例を出し合い、その時どうしたら良かったのか等を話し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などの機会を利用し、『虐待』の内容を伝え、また『不適切な対応』についても話をしたうえで日頃の支援を振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の状況を十分に把握すると共に、研修会や勉強会に職員を派遣して資質の向上を図るようにしている。また、行政機関や関係者との連携を十分に取り、適切な支援ができるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が説明を行い、またその後においてもその都度相談を受け対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、日常の話の中で出た意見や要望に関して、可能な限り反映できるように努めている。	年4回「おたより」を作成し、担当職員がコメントを添えて家族に届け、利用者の少しの変化でも早めに連絡をし、情報交換しているので行事等で家族に接触する機会を多く持とうとする努力と成果を確認する事ができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談や必要に応じた面談、また、より意見を出しやすいようにアンケートを取るなどの工夫により、職員の意見や思いをくみ取るようにしている。改善できるところから取り組んでいる。	職員の勤務体制の都合で、全員参加の職員会議は行われていない。定期的な面談や個別面談を重視しながら、日々の申し送りノートを充実させアイデアや意見を出し合っている。法人全体会議には管理者が出席し、ホームの意向を伝えているので法人全体はホームをよく理解し、職員の働きやすい状況を良く支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談と、必要に応じて話し合いの場を持ちながら職員の状況把握を行い、環境改善・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で指導・育成すると共に、年2回の法人全体での研修、外部研修などによりスキルアップを図ることを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会などの参加により、情報交換の出来る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問などにより、ご家族とともに、もしくはご本人一人で、話し合いの場を持ち、まずは安心できる環境の中でゆっくりと思いを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内での面談や、自宅訪問で実際の環境の中で話を聞くことにより、困りごとや不安なことを話しやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは話をしっかりと聞いて受け止めた上で、選択肢の提供もしながら、より良いと思われる方法をお伝えできるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な家事の一部を一緒にするようにしているが、さらにそういった意識と工夫が必要と感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会には気軽に来て頂きたい事、、可能な範囲で少しの外出や外泊などをお勧めしている。その時々の様子をお伝えし、一緒に家族や本人の思いを話し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からのかかりつけの病院に定期受診することで、地域の方々・知り合いの方々との交流が持てる。など可能なところでの支援に努めている。	利用者のかかりつけ病院や地域の人が多く集まる野菜市場などでの出会いを大切に伝え、職員と一緒に出掛けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い2・3人でソファで会話を楽しむ場面あり、一人でゆっくり過ごす場面あり、一緒にたくさんの洗濯物をたたむ場面あり、みんなで一緒にお茶を飲む場面など、工夫するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時に、その後も、様子を見に伺うこととお伝えし、可能な限り伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言葉や表情、態度や行動から垣間見える思いを感じ取るように努めている。	利用者と目線を合わせ利用者の傍らで見守りや語らいが出来やすいように、簡易な丸椅子をリビングに備え活用している。男性職員は入浴介助の中での一对一の対話を大切にしていると話していた。	一人ひとりの利用者について、その人の生活歴やライフスタイル、個性を把握し、日々の関わりの中で、具体的な意向を見つけてあげる作業を行って欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方の情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の支援記録に日々の様子を記録していくことで、状態の維持・変化が残される。それらを共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の職員同士の情報交換や支援記録を参考にモニタリングを行い、ケア会議などで話し合うようにしている。また医療に関しては主治医や看護師に相談。家族には面会時や電話により話をするようにしている。	従来 of 書式や研修で得た資料を参考に工夫した書式を作り、様式に則り記録している。それぞれの記録を充実、連動させ、職員同士の情報交換や支援記録を参考にモニタリングを行い、ケアマネが介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の支援記録の書式を見直し変更した。書く技術のスキルアップは課題であるが、日々の様子が書きやすくなりやすくなった。これをもとに情報共有し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の思いに出来るだけ添える様に職員のスキルアップを図り、工夫していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のこども園との交流・近所の子供会の訪問文化祭への参加・語り部をはじめとするボランティアの方の訪問・近所の野菜市など。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みのかかりつけ医との関係を継続している。	法人関係の医院から医師の往診と看護師の訪問看護がある。入居前からのかかりつけ医を継続される方もある。基本はご家族対応をお願いするが無理なら職員が対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護により、健康チェックを受け、相談したり、助言を受ける。これ以外にも必要に応じて電話で相談をし助言を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応は家族と職員で行い、入院までの経緯、日常の様子等の情報を医療機関へ提供する。入院中は家族に様子を尋ねたり、見舞いに行き病院関係者と情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについての話は、入居前の相談でも聞かれることが多いため、現状での出来る話をしている。終末期ケアは今後の大きな課題であり職員全員での研修も行ったが、まだ実施できる段階には至っていない。	今後は医療行為を必要としない方で、ご家族との連携など状況により、検討していきたい課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年職員全員、救命救急講習を受けている。緊急時の対応について、研修の機会を持っている。事故発生時には再発防止の対応策を、職員同志意見を出し合い、法人本部職員の助言も受け検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を行い、避難誘導や初期消火の訓練を行った。地域の町内会長・消防団長との連絡がすぐに取れるようにしており、町内会長から町内の方々への連絡をお願いしている。	この地方特有の「広戸風」に備え、窓に飛散シートを貼り、風雨中は利用者全員がホールで過ごす対策がある。町内会の連携も築けている。緊急災害時に備え、利用者の顔写真と身体状況、連絡先など一覧にしたものを事務室に常設してある等、災害に対する強い意識を持ち支援体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重・プライバシー保護を含む接遇について、会議などで話し合い、対応の方法に配慮するよう努力している。	本人の気持を大切に考えて、目立たず、さりげない言葉掛けや尊厳を持った対応が出来ていた。特に一人ひとりを尊重した丁寧な言葉掛けが出来ていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や様子を見て、こちらからも働きかけながら自分の思いを出せる雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にできるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部からの美容師訪問による整髪・顔そりや髭剃りなどの実施(希望者)。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きなものを聞いて、出来るだけ希望に添えるメニューでお祝いをしたり、会話の中で出た「食べたい」メニューを作ったり、下準備をするなどしている。またおやつと一緒に作ることもある。	一日三餐を当番職員が利用者の顔を見ながら作っている。週1回の体重測定、塩分調整は厳格に管理されている。利用者は元気でいつも全員が完食されているようだ。食前に使用した野菜にまつわる回想話等で食卓の雰囲気を盛り上げる等の食事の楽しみ方を工夫してみてもどうか。おやつタイムは職員も一緒に楽しんでいると聞いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態(粗刻み・小刻み)や分量をその方に合わせた物にして、安全に・食べやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや仕草を把握し、トイレ誘導、介助を行っている。	自立の人が二人、その他は声かけ誘導でトイレでの排泄が出来ている。以前から実施してきたズボンの上げ下げの容易さを図る工夫があったり、ポータブルの適切な活用等で自然排泄が出来るよう目標を定めた創意工夫を継続していきたい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として、水分摂取、軽い運動、腹部マッサージ、乳製品摂取等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者とマンツーマンでゆっくりコミュニケーションがとれる機会でもあり、楽しくリラックスしていただけるように、会話等工夫をしている。	これからの冬場の入浴は三日に一回を基本に実施している。若い新人の男性職員は、「転倒の不安を感じさせないように、手摺をつかむ順番などを示しながら、そして会話を楽しめるように心掛けている」と話しており、行き届いた支援の有り難さを感じる事が出来た。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も夜も、休みたい時に、休んでいただいている。季節や気候に応じた馴染みの寝具を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備から服薬までに、3人の職員が確認できるようにしている。薬の変更は申し送りにより、職員全員に伝わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での家事、興味のある余暇活動ができるように工夫を重ねている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別の要望に添える様にご家族とも相談をしながらすすめているが、外出の機会はまだ少ない。今後の努力が必要。	このホームの売りである南に面した広いウッドテラスは安全且つ自由空間である。車椅子利用者の男性が、一人で外気浴を楽しんでいた。通りかかった職員が「車が何台通ったかなあ」とさりげなく声を掛けていた。気軽に外出気分を満たせる場所である。ホームの周辺を1周したり野菜市場に出掛ける等も日常的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人では、お金を所持していないが個人の買い物の際に、職員がその場で利用者にお金を渡し、レジには自分で支払い、お釣りとレシートを受け取る。という形で行うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望、ご家族の状況に応じて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節毎の花や小物を置いている ホールには、利用者と一緒に作成した壁飾りや、季節に合わせた絵画や写真などを飾っている。食事時には安らぎの音楽を流したり、余暇活動の際は民謡や懐メロなど場面に合わせた曲をかけている。	リビングには2つのテーブルと長いソファが設置してあり、対面式の調理場の職員に見守られながら利用者はそれぞれの居場所でゆったりと過ごしていた。ソファコーナーはレクを楽しんだり、気の合う二人が寄り添って会話をしている様子は、ゆったりとした雰囲気醸成していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは、自分の食事場所が落ち着く方、ゆっくりとソファに座り新聞を読んだり、気の合う方と談笑する方、窓際の椅子でコーヒーを飲み外の景色を楽しむ方など、過ごしやすいうように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談で自宅を訪問した際に部屋を見せていただきそれを参考に居室環境を整える様にしている。家族や自分の写真を飾ったり、家で使用していた馴染みの物を持ってきていただくようにしている。	ベッドと脇机、クローゼットが備え付けられているので、どの部屋も整然として広さも確保できている。災害を想定してベッドの位置や転倒物にも配慮した配置になっている。全室が外景を楽しめる構造で、明るく清潔そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかりやすいように、自分の部屋がわかりやすいように、動線の手すりが使用しやすいようになどの工夫を重ねている。		